

**平成30年度**  
**望ましい学校づくり基本方針保護者説明会 意見・質疑**  
**【北指宿中学校区・南指宿中学校区】**

**【10月2日（火） 柳田小学校区（中央公民館）】**

**質問）**子どもを柳田小に通わせたいと思い、柳田小学校区内の賃貸が見つかるまでの1か月位、校区外から柳田小に通わせてほしいと教育委員会に相談に行ったが、聞いてもらえなかった。できれば、小学校を選ぶのもその状況に合わせて意見を聞いてほしい。

**回答）**嫌な思いをさせてしまったのであれば、申し訳ない。校区外通学の許可については、出されたものを、教育長を含めて、関係課で慎重に協議させてもらっている。子どもたちのためにどういう選択がよいのかの意見を、こういう場等でもしてもらいながら、今後、子どものためになるような通学になるよう努めていく。もし、納得がいかない部分があれば、遠慮なく教育委員会に言ってほしい。

**質問）**アンケートで、「二つの中学校に分かれて進学する課題を解決するためには、どのような方向が望ましいと考えるか」という質問に対して、「学校を選択」という項目がある。子どもはそこに住んで、その学校を卒業するのが普通だと思っていたので、この項目は、混乱を招くのではないか。

**回答）**何の問題もなく、それが普通だという人もいるが、学校を選べるようにしてほしいという意見も多いので、選択項目としている。法律ではできるようになっている。他でやっている地域はあるが、1年単位で人数が変わるので、選択制は難しいとは思う。

**質問）**ちょっと頑張って勉強したいと思ったときに、進路で鹿児島市内に流れていったりすることもある。指宿市内で平均的な子どもたちもいいと思うが、1校でも特色のある学校やハイレベルな学校を設けて、市外からも子どもたちが集ってくるようなことをやってみたらどうか。そういう学校が指宿にあってもいいのではないか。

**回答）**指宿には市立の商業高校がある。県立は、指宿高校、山川高校がある。ハイレベルな学校ができれば、残っていく子どもたちもいると思うが、私たちが造るということはいえない。企画部門にも意見として届けたい。

柳田小も十分ハイレベルな、モデル的な学校だと思っている。適正規模校なので、教科担任制、習熟度別授業などを行っており、そのような学校が全市的になれば、すべての学力、体力が上がっていくと確信している。なので、教育委員会としては、こういう適正規模の学校を目指したい思いがある。当然、まだまだ伸ばしていかないといけない部分もあるが、今言われたかたちでやるよりは、今の柳田小の状況をより充実させていくことが現実的で、具体的な教育ができるのではないかと思う。学力テストの結果も国、県、市を上回っている状況もあるので、そういうところは真似て、他の学校にも紹介していきたい。

**質問)** もし、中学校を選べるとなり、上の子は北指宿中で、下の子は南指宿中がいいとなったら、親としては、両方で大変になる。そういう場合はどうなのか。

**回答)** 今回、選択制の話をしたが、今北指宿中に行っている子がいて、仮に市の方針で南指宿中になった場合、下の子どもは南指宿中に行くことになってしまう。上の子はあと1年なのに南指宿中に転校するのか。北指宿中のままなのかというのも出てくる。課題がたくさんある。先程説明したシミュレーションはあくまで数字的なものである。実際、選択になるといろいろな課題が出てくるので厳しいとは思っている。

**質問)** 白水館近くに住んでいる子どもが丹波小に通っていたり、柳田小も遠くから通っている子どもがいたりする現状がある。低学年が1時間近く徒歩で通うのがかわいそうなので、送迎しているという保護者の声も聞く。そもそも小学校区の見直しも考えているのかを聞きたい。小学校区の見直しを検討したら、進む中学校区の数も見えてくるのではないか。

**回答)** 今の学校区域は、学校ができたときからのものである。今回の方針の中で、指宿地域については、「将来を見据えて指宿地域全体で学校規模の適正化についての検討を進める」ということで、全体で見直す必要もあると思っている。ただ、すごく大きな作業になってくるので、今すぐは難しいと思うが、今後検討していきたい。

**質問)** 自分自身、柳田小を卒業し、南指宿中に進学したが、アウェイな感じの1年生の1学期を過ごしたので、息子にはそういう思いはさせたくなかった。しかし、小中一貫教育を導入しようとしていることで、6年生が中学校に上がるプレッシャーはすごく軽減されてくるのではないかと思う。同じ中学校に通う予定の6年生が、小学生のうちに交流できる場をもっと増やしてもらえるのであれば、柳田小の子も中学校に上がったときに、しんどい思いをしなくてもいいのではないかと感じている。小中一貫教育を充実させて、6年生にプレッシャーがないような中学校への進学の仕方を考えてほしい。

**回答)** 小中一貫教育は、今言われたような良さを、いろいろな先進校を参考にしながら、今年から徐々に進めているところである。徐々に定着してくれば、また可能性は広がっていくのではないかと思う。今後、教職員の研修会等で具体的に進めていきたいと思う。

**質問)** 一昨年指宿に帰って来た。正直、丹波小学校区に住みたい気持ちがあったが、アパートはあっても、古くても小奇麗な一軒屋がなかなかなくて悩んだ。曾於市では、子どもがいれば市が建てた物件を貸して、子どもが増えていけばその人のものになるという物件があるようで、Uターンした方が住める家がたくさんあると聞いている。他県にいたときには、指宿市にもそういう住宅があれば、帰って来たいとか、指宿に住みたいとかいう話を聞いた。そういう物件があれば、子どもたちが住める環境もすごくよくなっていくと思う。

**回答)** 企画部門に伝える。

## 【10月3日（水） 魚見小学校区（魚見校区公民館）】

**教頭）** 魚見小では、小学生と中学生の交流として、総合的な学習の時間に北指宿中の1年生が来て歴史・自然・文化について合同でグループごとに勉強会をする。中学校の文化祭ではパネル展示を行い、6年生が見に行く予定である。市内の小中学校で、小学生と中学生の交流があれば教えてほしい。

**回答）** 同じ中学校に行く小学生と中学生と一緒にドッジボール大会をすとか、「いぶ好きふるさと学」で、同じ授業を計画してやろうとしている学校もある。また、西指宿中と池田小の高学年が池田湖でカヌー体験をしたこともある。これまでそれぞれの小中学校でやってきたものを一緒に行い、交流を図りながら、小学生と中学生の垣根を低くしていく。小学校1年生から中学校3年生まで、同じ目標を持ってやっていこうと、計画を立てながら行われているところである。1年間やった中で、他の学校の取組を紹介できると思う。

**事務局）** 学校の教育内容や仕組みが変わってきており、小中連携を図るために加配教員がいる。柳田小には中学校の体育の免許も持った先生がおり、柳田小、魚見小、指宿小の6年生の専門的な体育の授業をしている。その先生は来年一緒に北指宿中に行き、1年生の体育を教えながら、また小学校の体育も行う。そうすることによって、子どもたちが中学校に行ったときに、教えてもらった先生もいるので、不安がなくなる。同様に、去年は、南指宿中との連携で、丹波小に英語加配教員がおり、柳田小でも授業をしていた。また、今年から1年生から英語を始めたが、日本人で英語が堪能なAEA（外国語活動支援員）を3人雇用し、小学校の低学年を中心に担任の先生の手伝いをしている。新学習指導要領では、5・6年生が外国語科という教科になり、年間70時間、3・4年生が外国語活動になり、年間35時間行う。学習指導要領では3年生からだが、指宿市は1、2年生も10～15時間（魚見小は10時間）となっている。外国のことを勉強しながら、コミュニケーション能力を高めていこうとしている。

**質問）** 平成33年度にそれぞれ一つの学校に集約するという、山川地域、開聞地域の反応はどうか。

**回答）** 調整会議で、具体的な話を進め、こういう保護者説明会もしている。説明会では、それぞれの小学校区で不安に思っていることを事前にアンケートを採っていたので、その点をメインに説明した。保護者全員アンケートでは、「この方向で進めていいか」を聞いた。進めていいというところは、目標に向かってやっていきたいと思っている。場所を固めないで、これからの具体的な話はできないので、早いうちに話ができれば、また住民説明会をしたい。最終的には、教育委員会が決めないといけないと考えている。

**質問）** 反対の方はどうか。

**回答）** 強行的にしていくということではないので、丁寧な説明をして、その中で理解していただきたい。やったほうがいいのかという話が出てくれば、進めようという話になっていく

と思う。いろいろ意見を聞く中で、どこかで、教育委員会で判断をしなければならない。

反対の中には、場所やスクールバスなどがどうなるのか決まっていないので、今のところ賛成ができないという意見もある。これからある程度協議を進めていき、住民説明会をして、そこで判断してもらおう。これからは内容をしっかり示していくことが大事だと思っている。

### 【10月4日（木） 丹波小学校区（丹波小学校体育館）】

**質問）** 小学校3・4年生で外国語活動が始まり、5・6年生で外国語科が教科になる。ふるさと学などの新しいカリキュラムも増えてくるということだが、既存のカリキュラムでも、子どもたちも、先生方も大変だと思うが、その辺のバランスをどうやって取っていくのか。

**回答）** 義務教育なので、全国の学校で授業時数、教育課程は決まっている。それぞれの学校で、余裕時数等を活用し対応している。鹿児島県の場合は第2土曜日を授業にしているので、他の県より年間30時間位は多い。新しいものを取り入れることには抵抗があったり、慣れるまで時間が必要であったりするが、年数を重ねていくごとに、先生も、子どもたちも慣れていき、それが普通になってくると思っている。市も先生のサポートとして、負担がないように研修を実施したり、外国語活動支援員を3名雇用したりしている。あと、先生方同士の研修会でも、効率的な学習指導方法を研究しながらやっているところである。

**教頭）** 高学年の英語は70時間。そのために数年前から少しずつ時間を確保してきた。行事の選別などを行うことで、現在は時間に余裕を生み出すことができている。今後も計画を立てて授業数の確保をしていきたい。

**質問）** 習熟度別授業は、いじめに発展しないか心配である。

**回答）** テストの点数で分けるようなやり方はせず、単元ごとなど授業の内容で分けており、子どもたちのニーズに合わせて、いろいろ配慮しながらやっている。学校では、基本コース、発展コースという言葉を使わず、担任の名前を使って〇〇学級という名前を使いながら配慮している。教育委員会も学校もそういう授業でいじめが発生することは、絶対あってはいけないと思っている。

**質問）** 2020年の本格実施から英語の授業時間が増えると思うが、ALTの人員を増やしたり、常駐させたりする考えはあるか。

**回答）** 2020年から、3・4年生が35時間、5・6年生が70時間となる。今、ALTは小中高に行っているが、基本的には、中学校は英語の教諭が、小学校は担任の先生が英語を教え、その手伝いをする。先生方の不安を解消するために、今年から日本人のAEA（外国語活動支援員）を3名雇用して、1人が4校に出向いている。AEA3名の雇用は、県内でみると割と早い導入である。市では、1・2年生も2020年度には15時間を

確保したいと思っているので、今年1年取り組み、ALT、AEAの人数も検証しながら、検討していきたい。ただし、予算も伴うので、来年人員を2倍に増やすということはかなり厳しいと思うが、できるだけ実績を踏まえながら、よりよい方向を考えていきたい。

**校長)** 県内で英語教育が進んでいると言われているのは、薩摩川内市と鹿屋市だが、指宿市も人材や物的なものを前倒しで派遣してくれている。丹波小には、英語専科もいるし、ALTもAEAも派遣してもらっている。先日、5・6年部で研究授業をしたが、子どもはみんな「楽しかった」と言っていた。英語は2020年度から70時間やればいいが、指宿市は既に70時間やっている。今後、人を増やさないといけないのではという不安はあるかもしれないが、AEAとTTで授業することで、教員の英語の授業のレベルが高くなっている。2020年の完全実施についても、不安には思っていない。

**質問)** 学校の選択制はできるのか。また、今後そのような検討はあるのか。

**回答)** 理由があって、自分の住んでいる校区の学校に行けない場合、教育委員会に認められれば、学校を変更することができる。例えば、中学校に上がるときに、自分のやりたい部活動がないということで、違う中学校に行く子どももいる。変更が認められる理由はいくつかある。特認校制度もあるが、車で30分位で行ける地域での特認校というのは、難しいのではないかと考えている。学校の選択制をできないことはないが、法的なことや、実際やっている所で課題があったりする現状がある。

### 【10月10日（水） 指宿小学校区（指宿小学校体育館）】

**質問)** 望ましい学級の人数は21名～27名ということだが、指宿小の4年生は40人になって1学級になった。先生も減る。その辺はどうなのか。

**回答)** 学級の人数は国の基準があり、40人までは1学級になっている。41人になったら2学級になる。学級数に応じて県から先生が配置される。仮に、指宿市で2つに分けようとする、市で先生を雇って配置しなければならない。もちろん、選択肢としてはあると思うが、先生たちの人件費等を考えると、国の基準に基づきながらしていく必要があるのではないかと考えている。小学校の1、2年生については、国の基準とは別に、県の基準で30人学級というのがある。

**質問)** 子どもが少なくなってきたのに、国の基準が合ってきていないということか。それは、どうにかならないのか。昔のように教室が広くないので、40人学級はせまい。今も先々も子どもは大事にしてほしい。先生の数を減らさないでほしい。

**回答)** 習熟度別授業の場合、加配教員が配置されることがある。指宿小には加配教員がいる。その先生を活用しながら、少人数に分けて授業を行う取組をしているが、国もそれは減らす方向で考えており、厳しくなっている。

**質問)** 学校を集約する場合、通学はどうなるのか。スクールバスはあるのか。学校は新たに造り直すのか。財政的にはどうなのか。

**回答)** 山川・開聞地域は具体的な年度を示して方針を出した。各小学校区で保護者説明会を行っており、説明会前に不安なことは何か伺うために、事前アンケートも行った。保護者としては、スクールバスの保護者負担や乗り遅れ対策について不安があるようだった。保護者負担については、義務教育であるのでバス代の徴収は考えていない。乗り遅れ対策については、先進地では、運転手と保護者の連絡を密にしており、乗り遅れることはないとのことだった。また、自転車で通学している中学生も一緒に乗せてもいいのではないかとの意見もあった。

新しい学校の新設について、これまで先進地の調査を行ってきたが、新しい学校を造るとなると、10年くらいかかる。また、先進地では、土地の購入から36億円くらいかかっているところもある。学校を造ると40年、50年はそこにあり続けるので、未来を見据えながら考えていかなければならない。

**事務局)** 「いぶ好きふるさと学」は、ふるさとの良さを発見し、指宿を好きになって、指宿に定住または戻ってきてほしいという最終的なねらいがある。各小学校区に歴史、文化、伝統的なものがあるので、まずは小学校区で自分たちの校区の良さを知り、今度は小中一貫教育の中で、中学校区での良さに触れ、最終的には指宿市全体のことを知って、指宿から出た後に、また戻って来られるような、指宿を好きになっていく活動である。

乗り入れ授業については、例えば、各学校で陸上記録会の練習をやっているときに、中学校の体育の先生が高跳びの専門的な部分を教えたり、中学校の英語の先生が小学校の外国語活動に入ったりといった例がある。乗り入れ授業に関しては、現在、それぞれの中学校区で、小学校と中学校と連携して、小学校からこんなことを教えてほしいと中学校にリクエストしたりしている段階である。

**校長)** 「いぶ好きふるさと学」は、1、2年生は生活科、3～6年生は総合的な学習の時間の中で活動している。今度、小学6年生と北指宿中の1年生と一緒に学習をする。内容は、小学6年生が6つ位のグループに分かれ、そのグループに学校応援団の方が1、2人入り、調べたいことを2、3時間調べる。中学校でも同様の学習をして、北指宿中の生徒が指宿小に来て、お互い調べたことを持ち寄り、グループごとにまとめて、みんなの前で発表することになっている。

職場体験学習では、今年初めて中学生が4名ほど来てくれた。授業の手伝いをしてくれて、小学生にとっては、身近なお兄さんやお姉さんが来てくれて親しみが湧いたというのがあり、効果があったと感じている。

市の取組だが、柳田小の体育の先生が、6年生の体育の授業に入ってくれている。来年その先生は、北指宿中に籍を移すので、6年生の時に教えてもらった先生が、中学校でも教えてくれる、中学校にいるということで、中学校に上がった時の不安感の解消になる。